

[主催] 邦楽美演家団体連絡会議  
[助成] 東京都・(公財)東京都歴史文化財団  
[後援] ○公益日本伝統文化振興財団

# 邦樂演奏会

親子で楽しむ

はじめて見る、聞く、知る『三味線』！

平成31年3月30日 [土]  
国立劇場小劇場  
[鑑賞] 開場10時30分 /  
開演10時45分 /  
終演12時10分予定

# か ち か ち 山

作詞作曲 淨瑠璃じょうるり  
三味線しゃみせん 新内多賀太夫しんないたかたぶ  
新内 三味線 三味線  
内 ない 内  
多 かつ 多  
賀 し 賀  
太 す 太  
夫 ふ 夫

うわぢょうし  
上調子

しんない  
新内勝志帆



はじめての世界名作えほん  
「かちかち山」（ポプラ社刊）  
文／中脇 初枝  
作画／山田 みちしろ  
美術／門野 真理子

# ■「新内節（しないぶし）」解説

十八世紀半ばに江戸で誕生した淨瑠璃の一つ。宮古路豊後掾のひ孫弟子に当たる鶴賀新内に始まります。主として心中事件を脚色し、クドキ（主人公などが切々と思いを語りあげる場所、オペラなどのアリアに匹敵）に扇情的な曲節を工夫して、座敷淨瑠璃の領域で新境地を拓きました。舞台から離れたことが、高音と低音が交錯するような声の技巧を発達させたといえ、人の心を驚撃みするようなドラマティックな表現が魅力です。三味線は中棹を用い、高音と呼ばれる上調子（高い調子の三味線）が裝飾的な旋律をあしらつて声を彩ります。二人一組になつて花街などを歩きながら演奏する「新内流し」は、花街の風情を象徴する存在としても知られました。

■ 一かぢ一かぢ画 解説

「かちかち山」(ポプラ社)

この昔話は人間と動物、動物と動物の争いというように前半と後半で内容が違っています。というのも、もともと別であつた話がひとつにまとめられ、今日知られているような形になつたからです。いずれにしてもお百姓さんとかかわり深い昔話で、畠を荒らすものへの怒りと大切なしば刈りをめぐる争いがテーマになつています。たぬきをこらしめるうさぎはいささかきびしそぎるよう見えますが、悪事を働くものは当然その報いを受けるというのが昔話のきまりです。それでもうさぎとたぬきのユーモラスな争いは幼児の共感できる楽しさがあります。とりわけうさぎのとんちに何度もひつかかってしまうたぬきのまぬけぶりが愉快です。この昔話をなぜ「かちかち山」というのか、それはお話の中に出てくる「かちかちどり」の鳴き声に由来するもので、口から出まかせということになります。（昭和女子大学名誉教授、児童文学者 西本鶴介）

■ 楊柳

# 樂器解說

# 三味線

司会進行

ながうた  
とうおんつづき

長嘯三味錄

小唄三味線

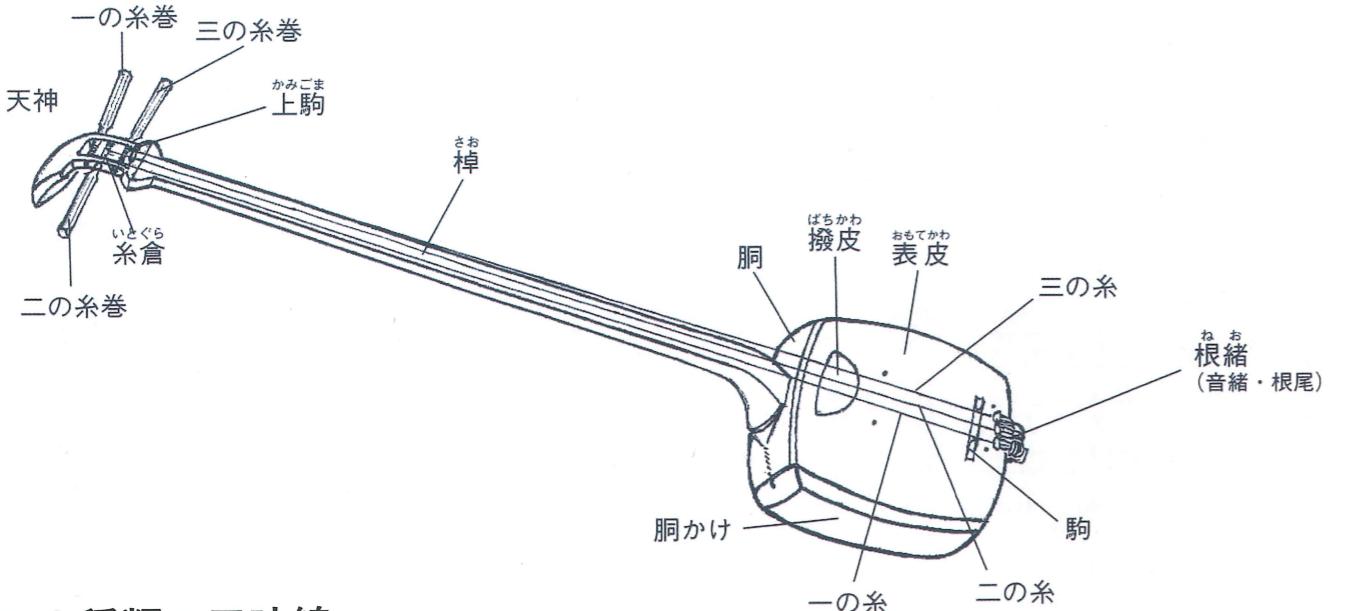
ぎだゆう

義大夫三味錄

た  
で  
蓼  
鶴澤三寿  
つるさわさんすず  
鈴緒  
すすお



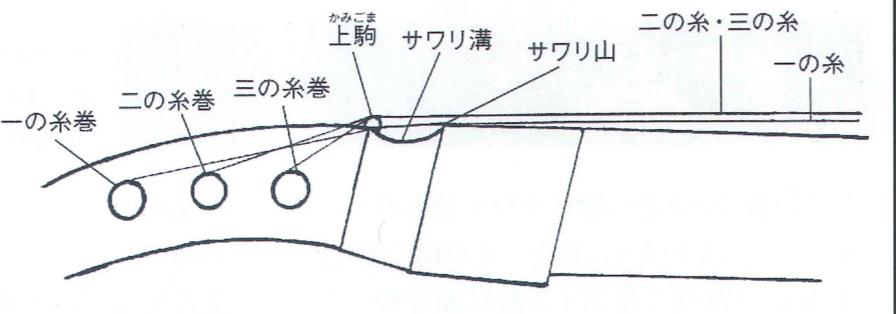
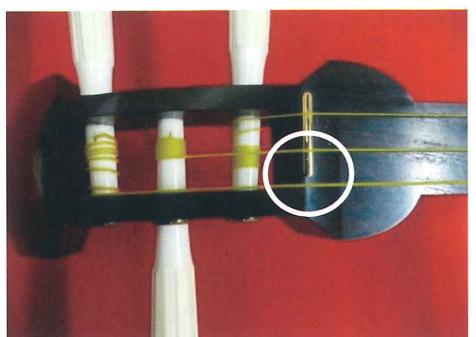
## ■ 三味線各部の名称



## ■ 3種類の三味線

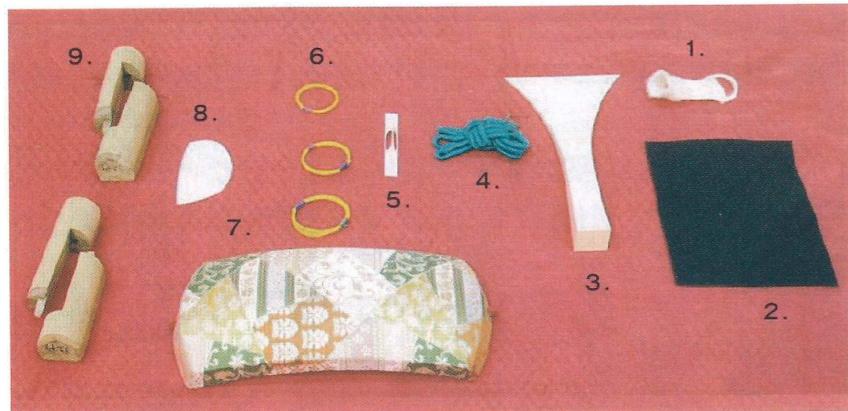
- 細 桟** (ほそざお) ⇒長唄(ながうた)、小唄(こうた)、端唄(はうた) など  
**中 桟** (ちゅうざお) ⇒小唄(こうた)、新内(しんない)、常磐津節(ときわづぶし)、  
清元節(きよもとぶし)、地歌(じうた)、民謡 など  
**太 桟** (ふとざお) ⇒義太夫節(ぎだゆうぶし)、津軽三味線(つがるしゃみせん) など

## ■ 三味線の「さわり」



天神横から  
上駒の上を通る二・三の糸、上駒の脇を通りサワリ山に触れる一の糸に注目

## ■ 三味線の付属品



1. **指かけ**(左手の親指と人差指にかけて円滑な動きを助けます) 2. **ひざゴム**(脛が滑り落ちない様に右膝の上におきます) 3. **撥(ばち)** 4. **根緒**(ねお、3本の糸を脣に繋ぎます) 5. **駒** 6. **糸**(絹糸、テトロン糸など) 7. **脣かけ**(脣にかけるカバーで右腕をここに乗せます) 8. **撥皮**(ばちかわ、撥のあたる場所に貼り表皮を保護します) 9. **仮継**(かりつぎ、三味線を分割する際に繋ぎ部分を保護します)

今からおよそ450年前、中國から沖縄を経由して日本に入ってきたがつき楽器です。それまで琵琶の弾き語りを専門としていた琵琶法師たちのアイディアによつて改良され、新しい音楽や表現法が工夫されて、あつという間に全国的に大ブレイクしました。邦楽の大半は三味線とともに発達したと言つて過言ではありません。

やや四角い太鼓ふうの胴体を長いネックが貫き、その上に張つた3本の糸を撥ではじく演奏スタイルは、リズムを刻み、声を彩り、日本人の心に響く自然を映し出す仕掛け。歌舞伎や文楽から各地の民謡に至るまで、さまざまな音楽シーンを彩る楽器として欠くことができません。

今日のギターに近い存在です。斜めに構えて、左手で弦を押さえて、右手で弦をはじいて音を出すスタイルもよく似ていますし、歌の伴奏に愛好されているところもそつくりです。歌の切れ目では、楽器のテクニックを最高に聞かせる見せ場があるところも一緒です。ちよつと違うところは、3本の弦しかなくて、右手に持つたおしゃもじのような形の「撥」という道具で弦をはじいて音を出すところと、ネックにはポジションを示すフレットがない点でしようか。そのために弦の上で指をスライドさせて音を出すのも、ギターよりもずつと得意です。

重厚な音を得意とする三味線、軽やかでよく響く音を持ち味とする三味線、しつとりと優美な響きを特色とする三味線。芸能によつて必要とされた音の表現が違つたので、色んな種類の三味線が工夫されました。ちょっとずつ性格が違う兄弟姉妹が沢山いる楽器と言えそうです。

# World Trip!

# 世界の民謡めぐりツアーアー

筝



曲名は舞台スクリーンを見て記入してください。



琵琶

尺八

三味線

十七  
紀

いしだまなみ  
石田真奈美

田中奈央一  
とうおんみのだこうだい  
東音簗田弘大  
とうおんつづき  
東音都築かとれ  
ながすけいめい  
長須佳盟  
ながすけいめい  
舛田路山  
ますだろざん  
川嶋信子  
かわしまのぶこ  
榎本百香  
えのもとももか



めに再編曲いたしました。  
むかし  
昔のアメリカ映画「八十日間<sup>かんせん</sup>  
きと  
えいが  
もあゆり  
しゅうじゆう」  
し気取つて気球で周遊します。

せっかく世界一周するのドーリーは欲張りて沢山めぐらしう。少しかけっこじで抜ける国もありますが、お隣の韓国から始まり、中国→ロシア→ポーランド→スペイン→アイル兰→フランス→イスラ→イタリア→スペイン→アイル兰→ギリシャ→トルコ→ペルー→ブリジル→メキシコ→アメリカ、十七カ国をめぐります。そして、最後にたどり着く国はアメリカでした。

そのような曲が演奏されるかは聞いてからのお楽しみですが世界の民謡を中心にして少しきりしきやボップスも盛り込まれております。和楽器と一緒にめぐる世界の国々、旅の案内人として十一人の旅人と共にどうぞお楽しみください。

この曲は「和楽器の皆さんと世界中を旅して周りたい」という気持ちで二〇一一年に書きました。

もともとは三重奏でしたが、今回は十一人の和楽器奏者のた  
きも  
わがつき  
みな  
せかいじゅう  
たび  
まわ

わがつあやひこ

おおのりつ